



紫式部日記傍註

上



紫式部日記傍註

上

紫式部日記傍註 2.8

世之稱才如者不為不多而

不為不多而

漢曹大家踵潛書於東宮親

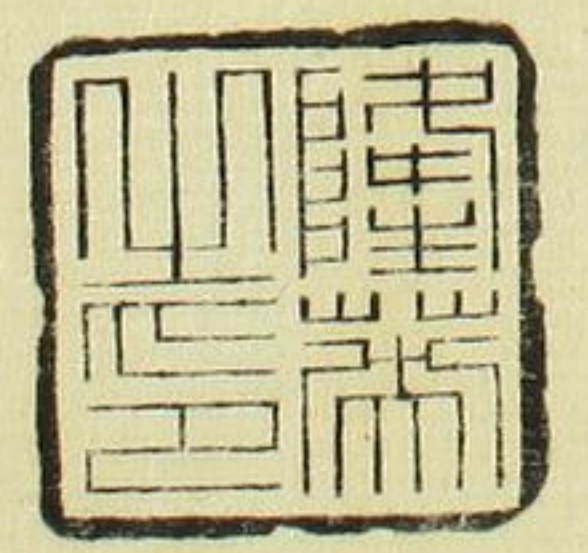
博學高才古今傳焉

本邦亦不乏其人而志或部

特知名所著日記一事文頗詞

達亦可見于一斑音并翰音。
多年搜索得善本。雅讀志。
慎字難解者。標注考。考核。
正。俟入昌曉乞余一信。曰。此。
某月以還之云。

享保已一箇之某藤原隆英序



惟通 從五位下 安藝守

定暹 阿闍梨

女子 紫式部 母同惟規 嫁左衛門權佐宣孝

河海抄云鷹司殿從位倫子官女也相繼而陪仕上東門院
又云源氏一部の中に紫の上乃事とてこれてすゆするあり
式部の名とつゝめて紫式部と号せられきり
今按此日記云左衛門督公任の所公任に此日記りに紫や
うゝぬとつゝひ云は是式部と指とる紫と稱せり

きり 今按 宣孝卒の後上東門院に仕ふる

父宣孝
女子 賢子 嫁太宰大貳高階成章因號大貳三位
後一條院御乳母

榮花物語殿上花見卷云内のゆめのと大貳三位云々

父同上
女子 弁局 後冷泉院御乳母

榮花物語楚王の妾卷云万壽二年八月三日後冷泉院汗誕生
りて乳母といふ所云大まの侍方の紫式部むすめなり
越後身兼隆卿の侍のゆきとつゝつゝつゝつゝけり云々

紫式部日記傍註上



土御門殿在土御門南鳥丸西

秋の言景々金とひ思ふありまに。土御門注上の庭に有る海いん
 こ形くおし。池乃見りこれ本と念とも。かみ水乃
 かりの葎村自恣の、あやまけとわらうつ。おぼろこれ
 えとえん艶なりためてるやれさ不断。おぼろの山讀こ經らう
 けしとくわえれまうりけり。やうくすしと風乃
 きしとあめと。例のきしとあめ氷のよかひ。おぼろすし
 こ中宮御前まうりけり。おぼろしとらうりけり。おぼろ計人計こ計らう
 けしとわらうりけり。おぼろしとらうりけり。おぼろ無人無こ無らう
 けしとわらうりけり。おぼろしとらうりけり。おぼろ去人去こ去らう
 けしとわらうりけり。おぼろしとらうりけり。おぼろ氣人氣こ氣らう

紫式部日記傍註上

給とせうらまは川ゆなれさうにきと。か。てまうけ
 をせ給へ。人のつわのくまの月さやぬるゆら
 つまも。りてらひうらぬ思いの色むしすひ。
 螺 鈿
 らてんぬいね。く。う。ぬ。ま。て。ひ。か。う。わ。さ
 りてあぬかあ。と。ひ。う。つ。ま。あ。う。は。く。り。あ。
 例
 まののしん。度。う。ん。か。ま。い。つ。ま。あ。の。ま。い。ま。の。ま。ま。
 懐平卿
 ま。あ。の。ま。ま。が。と。あ。ぬ。上。達。ア。も。あ。う。ひ。ま。あ。
 埋
 度。いて。ま。あ。ぬ。て。ひ。う。う。つ。れ。つ。る。厚。り。水。つ。ら。り。せ
 む。ひ。人。の。け。い。き。う。ま。あ。と。あ。ひ。け。り。心。の。う。ら。り
 ね。ま。あ。の。あ。ん。ん。も。だ。う。ま。の。ゆ。な。れ。ぬ。と。世。の。け。い。ひ
 中
 け。う。う。ら。に。も。ま。あ。ま。あ。と。あ。ひ。も。あ。と。あ。ひ。う。ら。り。あ。う。の。

橋三位つゆ子
 御堂殿記作
 徳子ト皆効之

と。人。より。ゆ。う。う。れ。し。ま。の。ま。あ。つ。う。の。ゆ。う。い。つ。る
 兼隆卿
 せ。ま。あ。り。ゆ。う。右。宰。お。中。の。指。中。納。ま。た。ま。あ。り
 源 俊賢卿
 て。あ。の。ま。の。こ。に。あ。ぬ。ア。り。に。う。い。ま。あ。り。あ。り。て。ま。あ。り
 對 實子
 け。り。臨。中。の。う。う。う。う。う。う。の。ま。あ。の。ま。あ。り。あ。り。あ。り
 頼 定
 かの。の。ゆ。う。ま。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り
 御 幣 使
 ま。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り
 奏
 ま。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り
 臍 緒
 ま。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り
 乳 付
 三。位。の。ま。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り
 注上
 ら。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り
 宗時
 び。の。ま。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り
 西
 一の。ま。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り
 緑

また内侍とぬきつり。右の頭光公ね央よりして。西本丁の

ころひむとみたらみられぬ。さすさすさすとほ

ちりふもいふ。あかさとさうたりたりみれぬ。のけい

りもあやうり。大史うけとりあそびたひて

ぬきつり。この山さみひてはあそび。さほりあれと

おりぬき。そのつとれまのひんりのさうり

り。右大将よりして。衣キヌのつら袖くらかきぬき

さ。人よりことなり。あひのまされとわぶつりさ

又たまうとんかき思ひぬて。計計無あこ

い雑礼くたれいふあへ。人よりいけよそあひさめ

あつさつとれ巡とんのころ大お怖らぬし怖ぬきのあ

あつひのあせむ代あまきとね公住卿に浦つ替あか

あひのころにあむしうたやまあふさううひぬき。源氏

ころぬきとひとみぬきぬき。これうひぬきと

あひぬきとぬきとぬき。三位のまげうけ

あひぬき。侍後乃宰相行成卿よりして。門乃公季公ぬきぬき

あひぬき。いぬきとみぬき。た大臣とあひぬき

権中齊信卿細言とみのま齊れ饗らりらりらりてきぬき

ひらりぬき。さあぬきぬきぬき。あひぬきのあひ

ぬきぬき。さあぬきのあひぬきとぬきとぬき

ぬきぬき。宰相兼隆卿よりして。いぬきぬき

ぬきぬき。宰相殿よりして。いぬきぬき

ぬきぬき。宰相殿よりして。いぬきぬき

ありはうりれらと人そつと思つとつら。さう身より
 ちせていゆつと。大くの世乃ありと海に少女の君れ
 ちめてに妙おしげすて。よ成うしとさしとてお
 結つと足ゆるなり。らて君よりあさうしとまりと
 人のやとよりいさうしとあよ好くともさ結つとらん
 めりうしとよのほとさうわ今朝けとそと海つよはらん
 ころ。はくしとこれららのぐとも。ひはくしと足屋
 らんしとさしとてさしとさしとさしとさしとさしと
 ありとさしとさしと。はくしとさしとさしとさしとさしと
草紙

撰集拾遺抄その娘ともまめてうりけりつ。あう
行成

于時大弁宰相
 の中納言と延轉とよめくさうしとひとあま。はくしと

延轉俗姓是陽
 成源氏大納言
 清原卿孫而子
 上総公僧也

わてつとつら。あうしとさしとさしとさしとさしとさしと
 くも。あこれうしとれつら。あさよはりしとさしとさしと
 やうのいあしとさしとさしとさしとさしとさしとさしと
僧延 轉注上 清原 近 澄
 たり。あんしとらつすみの君とかさうしとさしとさしと
 これいさうさしとさしとさしとさしとさしとさしとさしと
 のともいさうさしとさしとさしとさしとさしとさしとさしと

後附

寬弘五年

左大臣藤道一

右大臣藤頭光

內大臣藤公季

左大將

大納言藤道綱

傳

權大納言藤實資

右大將 按察

大納言藤懷忠

民部卿

權中納言藤齊信

中宮大夫別當右衛門督
十月十六日正二位

中納言藤公任

皇太后宮大夫

左衛門督

權中納言藤隆家

權中納言源俊賢

治部卿中宮權大夫
十月從二位

中納言藤時光

彈正尹

權中納言藤忠輔

兵部卿

參議藤有國

勘解由長官
播磨權守

同 藤行成

左大辨 侍從
皇太后宮權大夫

同 藤懷平

春宮大夫左兵衛督
伊豫權守

同 菅輔正

式部大輔
八十五

同 藤兼隆

右邊中將如元

同 藤正光

大藏卿

同 源經房

左近中將近江權守
左大臣高明公四男

同 藤實成

右邊中將侍從

前帥藤伊周

准大臣 給封戶千戶

正三位藤賴通

春宮權大夫

從三位藤兼定

右兵衛督

藏人頭左中辨藤通方

左近中將源頼定

藤頼親

少將 源重尹

藤兼綱

源忠經

藤頼憲

源公信

藤教通

源雅通

源濟政

藤道雅

